

子どもたちも よろしく

心の叫びが聞こえますか

鎌滝えり 杉田雷麟 椿三期
川瀬陽太 村上淳 有森也実

監督・脚本・隅田靖

企画・寺脇研・前川喜平（元文部科学事務次官）

製作プロダクション・ドッグシユガー

配給・宣伝・大秦

2020年／日本／カラー／105分

© 子どもたちをよろしく製作運動体

2/22(土)

シネマテークたかさ
きにて先行上映！

※ロケ地：群馬県桐生市
全国共通特別鑑賞券
1,500円(当日 1,800円)

ひっきりなしに報じられる児童虐待、いじめ自殺、子どもの貧困…。この国の子どもたちの置かれた状況は、厳しいものになる一方だ。いじめに苦しみ、そのために死を選んでしまう少年、性的虐待を受け自らを「汚れた存在」と思い込んでしまい風俗産業に身を沈める少女、そんな彼ら、彼女らに、われわれ大人は手を差し伸べることができるのか。いや、アルコール依存、ギャンブル依存、対人依存など大人のありようこそが問題の源なのではないか。その問いかけを、観客の皆さんに投げかけたい——。それがこの映画を作った一番の狙いだ。映画の中の子どもたちは、悩み、苦しみ、他人を追い詰め、自分を追い詰めていく。子どもたちの心の中の闇を振り絞るような叫び！この叫びがあなたの胸に届くだろうか。これが、文部科学省で長らく日本の子どもたちの実態と向き合ってきた企画・統括プロデューサーの寺脇研、企画の前川喜平、二人の願いであり、それを映画という形に仕上げた脚本・監督の隅田靖の思いなのだ。



STORY

北関東の川の向こう。デリヘルで働く優樹菜（鎌滝えり）は、実の母親・妙子（有森也実）と義父・辰郎（村上淳）そして、辰郎の連れ子・稔（杉田雷麟）の4人家族。辰郎は酒に酔うと、妙子と稔には暴力、血のつながらない優樹菜には性暴力を繰り返した。母の妙子はまったくの無力で、見てみぬふり。義弟の稔は、父と母に不満を感じながら優樹菜に淡い想いを抱いていた。優樹菜が働くデリヘル「ラブラブ48」で運転手をする貞夫（川瀬陽太）は強度のギャンブル依存症。一人息子・洋一（椿三期）をほったらかし帰宅するのはいつも深夜。洋一は暗く狭い部屋の中、帰ることのない母を待ち続けていた。稔と洋一は、同じ学校に通う中学2年生。元は仲の良い二人だったが、いつからか、洋一は稔のグループからいじめの標的にされるようになってしまっていた。ある日、稔は家の中で、デリヘルの名刺を拾う。姉の仕事に対して疑い出した稔は、自分も洋一と同じいじめられる側になるのではと怯えるようになる。稔と洋一、そして優樹菜。家族ナシ。友だちナシ。家ナシ。居場所をなくした彼らがとった行動とは——。

この作品は、中学生のいじめと自殺、その裏にある家庭の問題をリアルに描いている。とても重い映画。しかしこれは現実だ。この現実一人でも多くの人が気づくことが大事なのだ。

—— 前川喜平（元文部科学事務次官）

2020年早春
東京 ユーロスペース 他全国順次公開

